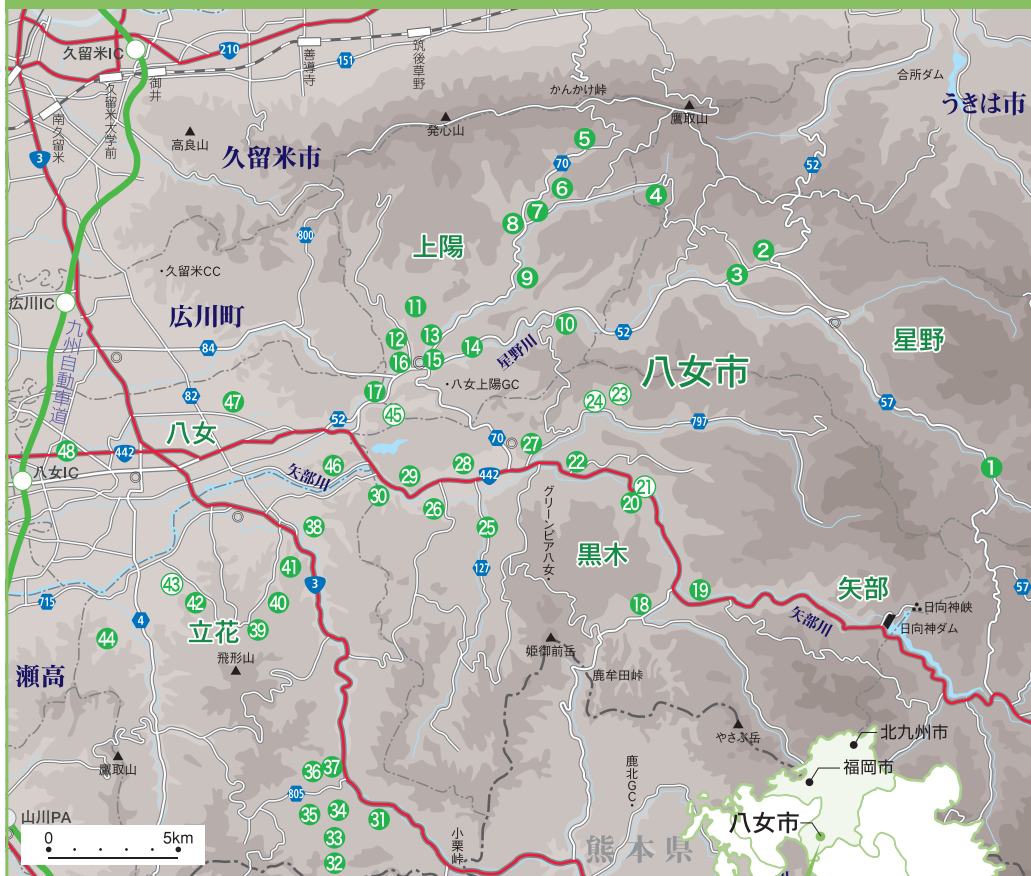


観る知る学ぶ 八女は楽しい

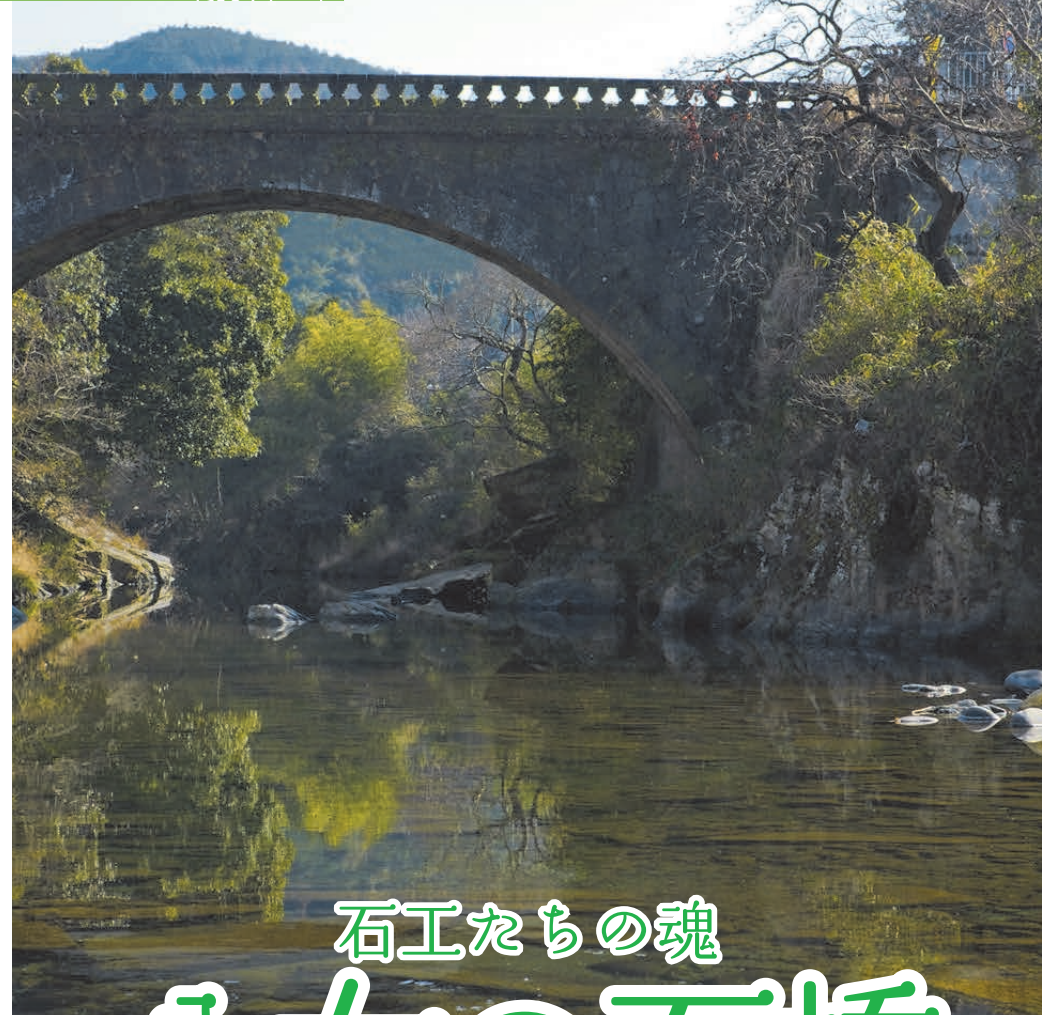


上の地図内の番号(1～48)は、13・14ページの
石橋48基の場所です。※②③④⑤は、平成24年水害により流失

八女市中心部
への
交通アクセス

【J R】博多駅→羽犬塚駅→堀川バス→八女市内
【西鉄】福岡駅→久留米駅→西鉄バス→八女市内
【お車で越しの場合】
○九州自動車道経由：八女インターを下りて約10分
○九州自動車道経由：広川インターを下りて約20分

茶のくに 八女・奥八女



石工たちの魂

八女の石橋

八女市観光振興課 TEL.0943-23-1192

〒834-0031 福岡県八女市本町2-129

石橋が残る風景

明治時代から大正時代にかけて、八女には石橋がたくさん架けられました。
大きな川にも、小さなせせらぎにも。四連の長い橋も、数歩で渡れる小ぶりの橋も。
時を重ね、風雪に耐え、どっしり構え今も多く of 石橋が残っています。
その姿は、道ゆく人をなごませます。



17 宮ヶ原橋 [八女]

石橋が映えて美しい

石橋の上から透き通る川の流りに目を注ぐと、
魚が泳ぐの見える。
石橋が川面に映る風景は、八女が誇る美しさ。



14 洗玉橋 [上陽]

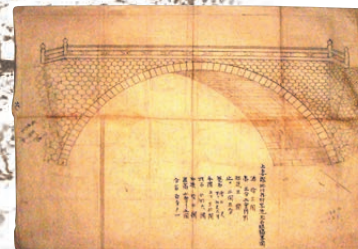
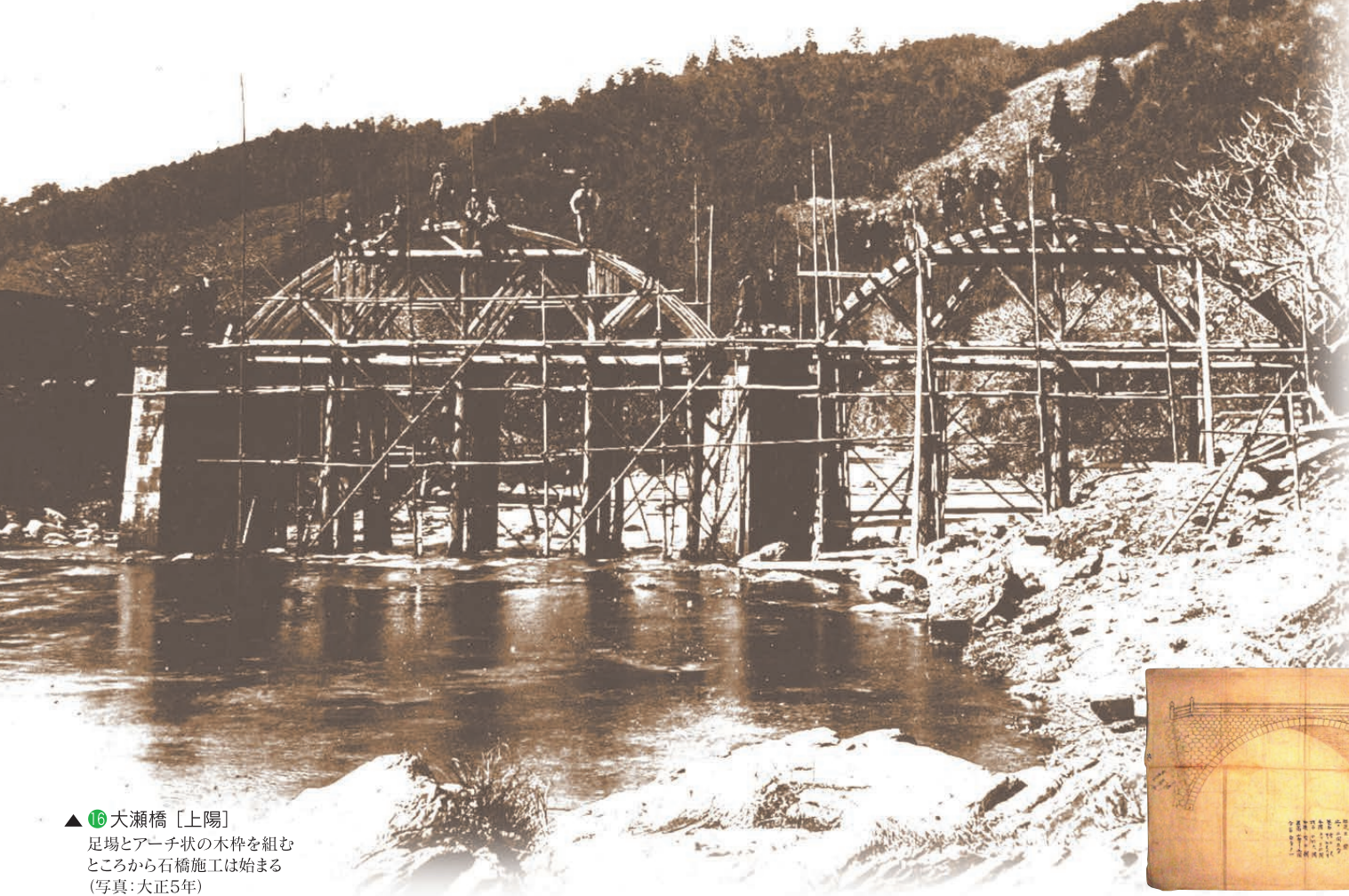


15 寄口橋 [上陽]

橋本勘五郎が育てた

八女の石工集団

通潤橋をてがけ、全国的にも有名な石工棟梁、橋本勘五郎。
明治二十六年、勘五郎が八女の地を訪れ、地元石工たちを指導しました。
肥後の種山石工集団からも技術を学び、
長野石工、辺春（へばる）石工といわれる石工集団ができました。
今、八女に残っている石橋のほとんどは、
彼らによって、明治時代から大正時代に
架けられたものです。



▲勘五郎が描いた洗玉橋（一連）の完成予想図

▲16 犬瀬橋 [上陽]

足場とアーチ状の木枠を組むところから石橋施工は始まる
(写真:大正5年)

15 寄口橋 [上陽] ▶

完成した寄口橋（二連）
渡り初め
(写真:大正9年)



◀17 宮ヶ原橋 [八女]

木枠に沿って石を
組み上げる
(写真:大正11年)

洪水のたびに木の橋が流されるため、村民が浄財を出し合い「洪水にも流されない耐久性のある石橋を作って欲しい」と役場へ交渉。その熱意が通じたのでしよう、当時七十歳を超えていた勘五郎が大勢の種山石工集団を引き連れ、八女の地へ。その経験と技術を注ぎ込んで洗玉橋ができました。

勘五郎が技術を伝授 石橋架設の幕開け



14 洗玉橋 [上陽]



通潤橋 [熊本県]

鞘石垣(さやしきがき)

通潤橋で実現させた独自工法を、八女の洗玉橋（一連）にも取り入れている。
勘五郎晩年の卓越した技術が残る貴重な石橋なのだ。

橋本勘五郎とは

肥後の種山出身の石工。明治政府に招かれ江戸橋、京橋もかけた名工。旧皇居二重橋も勘五郎作といわれる。有名な通潤橋を架けたのは、「鞘石垣」の技術を開発したことによる。「武者返し」として知られる熊本城の弓状に反り返った石垣にヒントを得た独創的技術だ。

古代から続く 石との暮らし

今から9万年前、阿蘇山の大噴火による火砕流は、九州一円を覆い、八女にも流れてきました。それがこの地で堆積したのが「長野石」と言われる阿蘇凝灰岩。それほど硬くなく、加工しやすい石なので、八女では古代から形をかえて脈々と受け継がれ、この石を使った石製品が生活にとけ込んできました。



石人・石馬。家形石棺。



鶴見山古墳出土「武装石人」国重要文化財



岩戸山古墳の別区(広場)に並ぶ石人・石馬(レプリカ)

古墳時代には八女を拠点とした磐井一族独特の「石人・石馬」が古墳を囲みました。石刀や石鶏も出土し、岩戸山歴史資料館にて展示。全国から考古学ファンが見学に訪れます。



石灯籠

八女は石灯籠でも有名。石工集団が暮らした長野・山内集落には今も石材加工場が連なり、石灯籠が並ぶ道路沿いの光景は八女ならではのものです。市中心部の八女伝統工芸館玄関前には、日本一巨大な石灯籠が座っています。



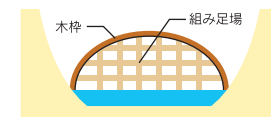
八女石灯籠

石橋の組み方。

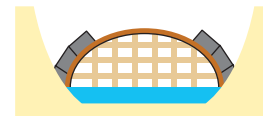
最初に足場と木枠をつくって、木枠の上に石を組み、最上部の要石(かなめいし)をはめ込んだら足場をはずします。

■ 石橋の組み方の手順(一例)

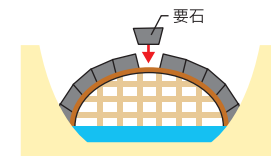
① 足場とアーチ状の木枠を組み



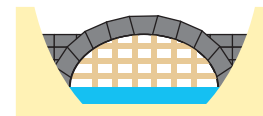
② 木枠に沿って石を組み上げる



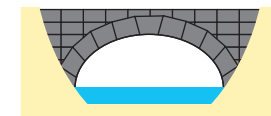
③ 要石をはめ込む



④ 側壁を積み上げる



⑤ 足場を取り外し、眼鏡橋完成



石橋探訪 ～八女を代表する石橋 群～

星野川沿いに有名な石橋、「ひふみよ橋」4基が架かる見応えあるエリア。

寄口橋(二連橋)の袂には「ほたと石橋の館」があり、石橋やホタルについての資料展示も。

館に隣接する「ホタルと石橋の里公園」に展示された「洗玉橋の親柱と欄干」は必見です。



14 洗玉橋〔上陽〕

勘五郎が手がけた 重厚な親柱と欄干

平成13年5月、護岸工事の際に洗玉橋の直下から石橋の部材が発見されました。勘五郎たちが手がけた洗玉橋の欄干が落下し、川底に眠っていたものです。



◀ 重厚な当時の親柱と欄干の一部が展示されています。



▶ 石材に刻まれた宝珠の文様。命がけの石橋架設で石工達が祈りを込めた証。



14 洗玉橋(一連)



15 寄口橋(二連)



16 大瀬橋(三連)



17 宮ヶ原橋(四連)

上陽の『ひ・ふ・み・よ橋』

星野川の上流から順に、一連・二連・三連・四連の石橋が架かっています。愛称は「ひふみよ橋」。

▶ 宮ヶ原橋のアーチ部石材には、当時の棟梁の名前が刻まれています。



石橋探訪 ～味わい深い橋～



技

術を駆使した古き橋

⑤ 納又天満宮参道橋[上陽]

半円形一重巻き形式のアーチ構造の橋は、心字池の水面に映った逆さ橋とで荘厳な輪環を形作る。



▲22 熊野宮参道橋[黒木]

神社仏閣の心字池を渡る太鼓橋形式の参道橋は、現世から隔離された浄土や神域への境界であった。



神

域へ渡る太鼓橋

◀31 黒岩橋[立花]

河底に落ちて放置されていた勾欄は、昭和60年に八女市の下川軍次氏により元通りに修復された。



▲36 古立石橋[立花]

垂直加重を支えるアーチ基礎部は左右岸とも強固な岩盤に巧みに石組みし、どっしりと築かれている。

人知れずひっそり

む小さな橋

佇



▲32 前川内奥の橋[立花]

眼鏡橋の真上に隙間を確保して、路線を変えずに桁橋を架設、眼鏡橋は原型のまま保存されている。



▲24 関屋橋[黒木]

板石を置けば済む程のせせらぎに架かる径間1.3mのこの橋は、「ひと跨ぎ橋」とも呼ばれている。
※平成24年水害により流失

◀19 中村の眼鏡橋[黒木]

江戸時代に築かれた花巡迴水路、その中村付近の水路が昭和10年代に隧道化され、霊場へ通じる橋が架けられた。



▲29 内ノ城の眼鏡橋[黒木]

江戸時代に築かれた黒木廻水路、その末端付近が大正時代に隧道化され、その際に水路を跨ぐ橋が架けられた。



廻

水路に架かる里道の橋



▲3 堅木橋[星野]

県道上横山星野線の棕谷川に大正15年に架設、その後、アーチの特性を生かし上下流側に各1m路面床版が広げられた。



▲21 須崎橋[黒木]

※平成24年水害により流失
国道442号に大正12年に架設。
その後アーチ橋幅員は6.6mに広げられ、平成26年に桁橋に架け替えられた。

基

幹道路を支える大型の橋

ほたと石橋の館

「ほたと石橋の館」は、石橋やホタルの情報発信基地。
寄口橋(二連)下流の河原にも石段で下りられます。
まつりも開かれ、石橋の周りに大勢の人が集います。
人々の努力で川もきれいに保たれ、初夏にはホタルが乱舞します。



ほたと石橋の館

〒834-1102
福岡県八女市上陽町北川内589-2

開館時間 10:00～18:00 (サマータイムあり)
♿ 身障者用トイレあり

休館日 毎週水曜日
(水曜日が祝・祭日の場合はその翌日が休館日)

電話番号 0943-54-2150

メールアドレス info-hotaru@joyo-town.jp



展示館

ホタルの生態をパネルで紹介したり、石橋の架設風景を写した貴重な写真を展示しています。八女地方の自然と歴史を楽しく学べる展示館です。

茶彩館「陽の幸」

地元の特産品を販売する物産館です。



四季折々に石橋を味わえるまつり

桜と石橋まつり

3月下旬～4月上旬

[北川内公園]

ライトアップされた
600本の桜と石橋。
幻想的な風景が浮かび
上がります。



※桜の開花時期に合わせて日程が変更になる場合があります。

ホタルと銘茶まつり

5月下旬～6月中旬

[ほたと石橋の館 他]

上陽を代表する
ホタルと新茶の祭典。
上陽の魅力を
丸ごと楽しめます。



万灯流し

8月16日

[ほたと石橋の館 周辺]

淡い光を放ちながら
ゆらゆらと川面を漂う
風景は幽玄です。



八女の石橋

橋名の頭番号は、裏表紙の地図内の番号です。



① 浦の眼鏡橋 [星野]
※平成27年度撤去予定



② 一木橋 [星野]



③ 堅木橋 [星野]



④ 古塚眼鏡橋 [星野]



⑤ 一ノ渡瀬橋 [黒木]



⑥ 中名眼鏡橋 [黒木]



⑦ 宗真寺参道の眼鏡橋 [黒木]



⑧ 犬小淵眼鏡橋 [黒木]



⑨ 納又天満宮参道橋 [上陽]



⑩ 古賀橋 [上陽]



⑪ 三川橋 [上陽]



⑫ 飯塚橋 [上陽]



⑬ 内ノ城の眼鏡橋 [黒木]



⑭ 湯辺田の眼鏡橋 [黒木]



⑮ 黒岩橋 [立花]



⑯ 前川内奥ノ橋 [立花]



⑰ 八重谷橋 [上陽]



⑱ 栗林橋 [上陽]



⑲ 尾久保橋 [上陽]



⑳ 鮎婦橋 [上陽]



㉑ 前川内中ノ橋 [立花]



㉒ 前川内橋 [立花]



㉓ 江後橋 [立花]



㉔ 古立石橋 [立花]



㉕ 枕橋 [上陽]



㉖ 洗玉橋 [上陽]



㉗ 寄口橋 [上陽]



㉘ 大瀬橋 [上陽]



㉙ たていし橋 [立花]



㉚ 多々良の丸山橋 [立花]



㉛ 奥仁合橋 [立花]



㉜ 一ツ葉橋 [立花]



㉝ 宮ヶ原橋 [八女]



㉞ 小原橋 [黒木]



㉟ 中村の眼鏡橋 [黒木]



㊱ 古須崎橋 [黒木]



㊲ 下村橋 [立花]



㊳ 堀切眼鏡橋 [立花]



㊴ 谷中の眼鏡橋 [立花]
※平成24年水害により流失



㊵ 男ノ子の眼鏡橋 [立花]



㊶ 須崎橋 [黒木]
※平成24年水害により流失



㊷ 熊野宮参道橋 [黒木]



㊸ 下松尾の眼鏡橋 [黒木]
※平成24年水害により流失



㊹ 関屋橋 [黒木]
※平成24年水害により流失



㊺ 梅ヶ谷の眼鏡橋 [八女]
※平成24年水害により流失



㊻ 北田形の宝橋 [八女]



㊼ 本の眼鏡橋 [八女]



㊽ 浦原の眼鏡橋 [八女]